

第3章 水道事業の現状と課題

3.1 水需要の見通し

3.2 水道事業の課題

第3章 水道事業の現状と課題

3-1 水需要の見通し

■行政区域内人口の動向

行政区域内人口の推計は『人口問題研究所推計値』、『笠岡市マスタープラン目標人口』、『時系列分析結果』、『笠岡市振興計画目標人口』の4ケースを検討しました。本計画では、将来的な財政計画に大幅な狂いが生じないように4ケースの平均値を行政区域内人口の推計値として採用しました。行政区域内人口は平成18年度の56,900人に対して平成28年度では54,600人まで減少すると想定しています。

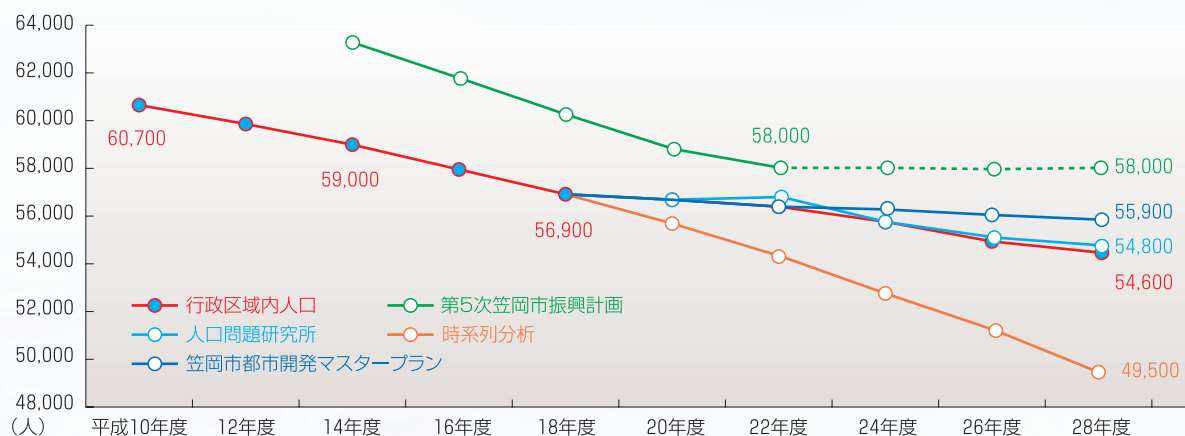


図3.1 行政区域内人口の推移

■給水人口の動向

給水人口は行政区域内人口の動態と水道の普及率に比例しています。水道の普及率は100%を目標としますが、行政区域内人口が減少しますので、給水人口は平成18年度の55,800人に対して平成28年度では54,600人まで減少すると想定しています。

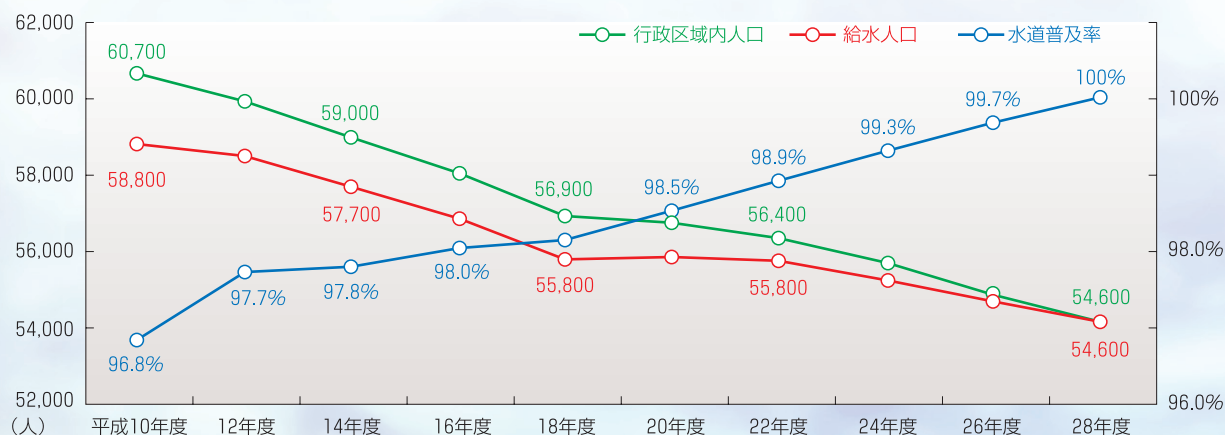


図3.2 給水人口の推移

■水需要の見通し

給水人口が減少傾向にあります。また節水機器の普及やペットボトル飲料水の普及、節水意識の向上に伴い生活原単位が減少しています。これらが要因で今後の水需要は減少し、1日最大給水量は平成18年度の19,111m³/日に対して平成28年度では18,669 m³/日まで減少すると想定しています。

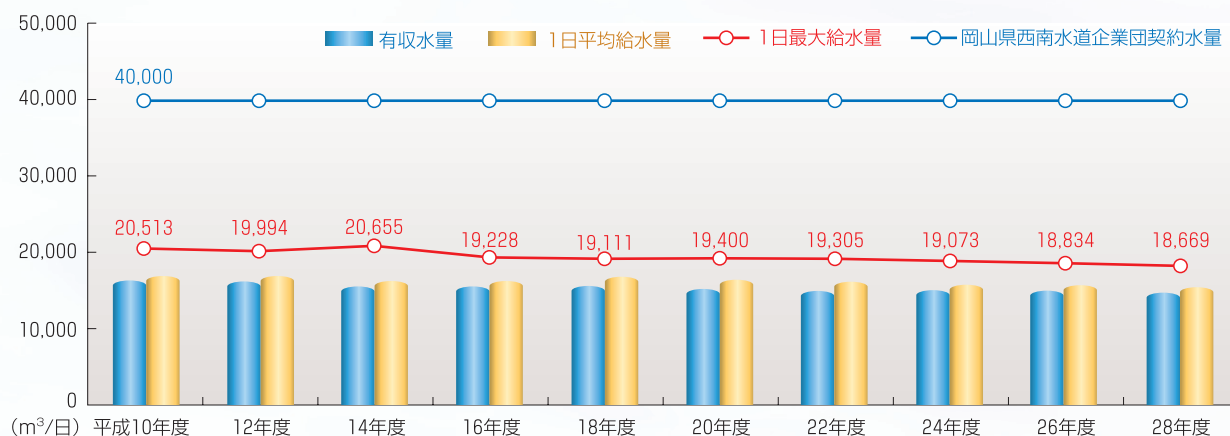


図3.2 水需要の見通し

3-2 水道事業の課題

本市の水道事業の課題として『水需要の減少』、『全体的な施設の老朽化、災害に対して脆弱な施設』、『職員の高齢化と水道技術の継承』があげられます。

■水需要の減少

日本の人口はこれまで増加を続けてきましたが、平成18年をピークに減少傾向に転じています。特に地方都市近郊の市町村では都心や地方都市へ人口が流出し、更なる人口の減少が進むと想定されています。本市も同様に給水人口が減少すると予測されています。それに加え節水機器の普及やペットボトル飲料水の普及等により生活原単位（1人当たり使用水量）の増加も見込めません。今後、水需要は減少すると想定しています。

水需要の減少に伴い給水収益が減少し、水道事業の経営はこれまで以上に困難になると想定されます。